

## 第1回 関西エリア検討会のご報告

2021年3月6日（土）、JANS若手の会関西エリアで初となる第1回検討会を開催しました。「関西エリア」といっても、今回は社会情勢を鑑みてZoomによるオンライン開催といたしました。その甲斐あって全国各地から参加登録をいただくことができまして、計11名が参加くださいました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大による様々な影響について話し合い、このような状況下でも研究継続に向けて必要な方法を模索することを目的とし、テーマを「Withコロナ時代の研究活動」と題した2部構成として実施しました。

第1部は、まず検討会に先立って事前アンケートをとらせていただいた結果の報告を行いました。コロナ禍前と比較し、感染症対応による研究時間確保が困難となった、研究計画を変更せざるを得なくなった、倫理審査委員会の開催が制限された、調査依頼機関への立ち入りの制限や研究協力者と対面での調査が実施できなくなった等の困難さが挙がりました。一方、対策や工夫を凝らし、「こんな時だからこそ必要な研究だ」との意義を明確にし、着実に研究を継続する必要性も見いだされました。

次いで、話題提供者としてお招きしたウィリアムソン彰子（神戸大学医学部附属病院 看護部 副看護部長）氏から、研究依頼を受ける臨床側の観点からお話しいただきました。臨床におけるコロナ対応や、その中にある研究依頼件数も大幅減となっている事実など具体をお知らせいただきました。研究依頼の封筒を目に留まらせるための工夫は？本当に調査依頼機関へ立ち入らないと実現しない研究なのか？本当に対面で調査協力をいただかないとデータが得られない研究なのか？代替となるデータ収集の手段はないのか？等の問い直しを含め、インタラクティブに進行くださいました。「研究者たるもの創造的に」との力強いお言葉をいただき、柔軟に研究を進めてゆくことの大切さが話し合われました。

第2部は参加者同士の意見交換会を行いました。参加者の研究テーマや、コロナ禍で研究に取り組む中での困難、そして第1部の内容を受けていかにその困難を乗り越えられそうかとの見込みも話し合わせ、若手研究者の相互交流が実現しました。真剣な若手研究者の議論の場の必要性と、時にはカジュアルな場で気負わず本音で話しあえる交流会のご要望もいただき、今後も継続的に交流を深めていきたいと思っております。

# With コロナ時代の 研究活動



本検討会では、COVID-19感染拡大による研究活動への様々な影響について話し合い、このような状況下でも、研究継続を可能とする方法を模索します

- [日時] ▶▶▶ 2021年3月6日 [土] 14:00-16:00
- [開場] ▶▶▶ Web開催 (zoom)
- [定員] ▶▶▶ 50名程度

申し込み締切  
2月13日(土)

## 第1部

- 14:00~14:10 ご挨拶
- 14:10~14:30 コロナ渦における研究活動
- 14:30~15:10 コロナ渦における研究活動への臨床側の対応  
(話題提供者 神戸大学医学部附属病院 ウィリアムソン彰子氏)

## 第2部

- 15:20~15:50 参加者同士で意見交換会
- 15:50~16:00 まとめ
- 16:00~16:30 交流会(希望者のみ)

関西エリア  
初の研修会!!

他エリアからの  
参加大歓迎!!

参加登録・  
アンケートは  
フォームから

お問い合わせ

